

情報活用の実践力を高める取り組みの在り方
～港の見える公園を盛り上げるためのチラシ作りを通して～

(1) 設定理由

近年子どものコミュニケーションの不足について問題視されている。SNSの発展とともに、それらに夢中になる子どもが多くなり、人とのコミュニケーションの仕方がわからない子どもが増えている。そのため、相手に自分の意見や考えをわかりやすく伝える「話す力」やそれを文章として「書く力」の「表現力」低下傾向にある。学校現場でもコミュニケーションの不足はトラブルの原因となっている。

クラスの様子を見ると、自分の言葉を相手に上手に伝えられず、トラブルに発展してしまったことや、上手に説明できないため、発表ができない児童が多い。また、感想を書く場面でも、戸惑っている児童がいる。実態調査では、「文や言葉で何かを伝えることが苦手」と答えている児童が17名中12名という結果であった。

昨年度、本校の敷地内に「港の見える公園」がつくられた。「港の見える公園」を盛り上げるためにポスターを作成し、ポスター作りの課題を生かしてチラシを作成していく過程で、自分の考えを分かりやすく、正確に伝える力を身につけさせる。

今日の時代背景を見て高度情報社会を見つめたとき、必要とされる力は、「自分の考えを分かりやすく、正確に伝える力」であり、それらの力を身につけていくことが、高度情報社会を生き抜く力につながっていくのではないかと考えた。

(2) 仮説 身近な素材を活用し指導計画を工夫すれば、児童が主体的に活動し、相手や目的に応じて必要な情報を主体的に表現する力が高まるだろう。

(3) 研究内容 ①実態調査の考察
②研究主題・仮説の検討
③検証授業の実践 対象：勝浦市立豊浜小学校5・6学年（17名）
④研究のまとめ

(4) 結論

- ・目的意識や相手意識をしっかりと持たせて活動させたことで、チラシ作りを通して必要な情報を主体的に表現することができ、情報活用の実践力の高まりを実感することができた。
- ・自分達の作ったチラシを見て多くの人が活動に参加してくれたことに対して、子どもたちは自分達の活動に自信を持ち、チラシは効果的な方法だったと実感することができた。
- ・他のグループの指摘をする時に、見合う視点をより明確にさせておけばよかった。

1 研究主題

情報活用の実践力を高める取り組みの在り方
～港の見える公園を盛り上げるためのチラシ作りを通して～

2 主題設定理由

(1) 教育の今日的課題から

現代は、高度情報社会である。それはインターネットの発達と普及に端を発するものであり、AI（人工知能）やVR（Virtual Reality）など一昔前では想像もできなかった世界が現実となっている。また、スマートフォンの普及によって、インターネットの持ち運びが可能となり、街中を歩きながら、食事をしながら、どんな時においても携帯を片手に行動している様子をよく見かける。内閣府の最新調査（平成28年11月～12月現在）によると、青少年のスマートフォン所有率は小学生27.0%、中学生51.7%で、小学生の4人に1人、中学生においては2人に1人がスマートフォンを所有していることになる。今後より多くの小中学生がスマートフォンを所有することになるであろう。情報社会の拡大と共に、情報活用の実践力やインターネット上のモラルはそれに伴った成長を見せているかといえばそうではなく、SNS（social networking service）を通じた問題がある。相手の状況がわからないまま情報をやりとりするため、相手が意味を取り違えてしまったり、嘘や好き勝手な情報を流されたりすることがある。そこから、いじめや事件に発展する問題がニュースや新聞記事、インターネットで頻繁に取り上げられている。

近年子どものコミュニケーションの不足についても問題視されている。児童の取り巻く社会情勢をみると、核家族化や少子化がますます進み、異年齢の人や立場の違った人との交流が少なくなっている。また、かつては外遊びの中で身体や言葉を使って人対人の遊びや対話が行われ、人間関係を学ぶことが出来ていた。しかし最近では、ゲームやインターネットが発展し、それらに夢中になる子どもが多くなり、人とあまり対話しないため、人間関係の基礎となる、人とのコミュニケーションの仕方がわからない子どもが増えている。そのため、相手に自分の意見や考えをわかりやすく伝える「話す力」やそれを文章として「書く力」の「表現力」が年々乏しくなっている。学校現場でもコミュニケーションの不足はトラブルの原因となっている。

これらの時代背景を見て高度情報社会を見つめたとき、必要とされる力は、「自分の考えを分かりやすく、正確に伝える力」であり、それらの力を身につけていくことが、高度情報社会を生き抜く力につながっていくのではないかと考えた。

(2) 本校の児童の実態から

豊浜小学校は、太平洋を見下ろせる高台にあり、校舎からは豊浜漁港と川津漁港が望める。学区は勝浦市の北部に位置し、風光明媚な入り組んだ海岸線に沿って部原、新官、沢倉、川津の4地区からなる。県下で最も海に近い小学校である。学校門から見える漁港の風景が、NHK連続テレビ小説「あまちゃん」にも登場した。海を見渡せる学校である。

本校は今年度5・6年生の複式学級である。異学年学級となっていて、4月当初不安を抱えている児童も少なくなかった。しかし、同じ教室で同じ時間を過ごしていく中で、次第に

異学年同士の会話が増えたり、一緒に遊んだりする様子が見られるようになってきている。

クラスの様子を見ると、自分の言葉を相手に上手に伝えられず、トラブルに発展してしまったことや、うまく説明できないために、発表ができない児童が多い。また、感想を書く場面でも、戸惑っている児童がいる。このような実態から5・6年生にアンケート調査を行うと、「文や言葉で何かを伝えることが苦手」と答えている児童が17名中12名であった。これまでの書く活動を見ても、言語能力の低さからなかなか文を書くことが出来なかった様子が見られた。また、目的や相手に対する意識が低く、伝わりやすい文章を書くことができていなかった。さらに、話すことが得意な児童だけが発言したり発表したりしているため、話すことに対して経験不足なのではないかと考えられる。

昨年度、本校の敷地内に「港の見える公園」がつくられた。前校長先生を始め、有志の児童と保護者が学校を盛り上げるために、プロジェクトチームを立ち上げた。市のまちづくり提案事業審査会で「港の見える公園」プロジェクトが採用されたため、補助金をいただき、公園作りがスタートした。最初は何もないところからのスタートだったが、ベンチや花壇、菜園など徐々に様々なものが出来上がってきている。しかし、公園の存在を知ってはいるものの、ほとんどの児童の関心は低かった。

そこで、公園という身近な素材を使い、自分達の力で目標を立てさせることにより、関心・意欲を高められるのではないかと考えた。教師が一方的に課題を提示するのではなく、児童が自ら課題を見つけ、課題解決の方法を考え、実践していく過程を大切にしていきたい。また、自分の考えを言葉や文にすることが苦手な児童が多いため、誰のために、何のためにやっているのかという目的意識と相手意識をしっかりと持たせ、目標をはっきりとさせていく。さらに話し合いの経験が少ない児童が多いので、話し合いの場面を多く取り入れていきたい。

このような実態から、本研究では、「港の見える公園」を盛り上げるための様々な活動の過程で、自分の考えを分かりやすく正確に伝える力を身につけさせたいと考えた。

(3) これまでの研究から(郡教研, 県教研, 全国教研での話題を踏まえて)

年度	研究主題
2008年	輝る 自分を創る ～デジタル写真のよさに着目し、手書きのよさを見つめる～
2009年	自らが気づき、作り出す情報モラル ～千町小招待ポスターづくりを通して～
2010年	自分たちの思いを伝えることのできる子どもの育成～オリジナルパンフレットづくりを通して～
2011年	情報モラルを意識することのできる子どもの育成 ～地域との計画的な連携を通して～
2012年	情報端末を活用した教材研究の在り方
2013年	情報端末を活用した学習の在り方 ～情報活用の実践力を高める体育学習～
2014年	小学校における情報モラルの育成 —「太東っ子ケータイ宣言」づくりを通して—
2015年	伝え合いを促し、思考力を高めるタブレット端末を活用した授業の在り方
2016年	目的意識・相手意識を考慮した情報活用の実践力を高める取り組みの在り方

本部会では、2011年度までは情報モラル中心の共同研究が続けられてきた。2012年度からは「今後進む教育のICT化へ対応できるように」というテーマに基づき研究が続けられてきた。

第65次千葉県教育研究会で挙げられていた「今後の課題」の一部として次のようなことがある。

- ① 学校の中でどんな文化活動を高めていくか、ねらいをはっきりさせて組織・実践していく必要がある。
- ② 子どもの表現力やコミュニケーション能力を育てるために、目的意識・相手意識を持って活動していくことが重要である。

さらに、第66次全国教育研究会で話し合われた内容の一部に「アクティブラーニング」の大切さと、子どもがスタートからゴール（目標）に行くまでの間に、どんなルートを用意してあげるのか。メディア・リテラシー教育と文化活動では、子どもが目標に達するまでの道筋を作るための手段で、活動をすることが目的ではなく、「子どもを成長させるための方法の一つ」であるということが話されていた。

新しい時代の研究を考えたときに、上に挙げた課題点を克服し、これからの指導方針に即したものをつくっていく方が、より合理的で積極的なのではないかと考えた。そこで、本校ならではの身近な素材を活用しつつ、児童がより主体的に対話的な学びができるように指導計画を作成した。自ら課題を見つけ、目的意識や相手意識を持って必要な情報を主体的に表現する活動が効果的であると考えた。

3 研究の目標

情報を適切に表現することのできる児童を育成するための指導方法を明らかにする。

4 研究仮説

仮説 身近な素材を活用し指導計画を工夫すれば、児童が主体的に活動し、相手や目的に応じて必要な情報を主体的に表現する力が高まるだろう。

5 研究方法

(1) 実態調査の考察

(2) 研究主題・仮説の検討

(3) 検証授業の実践（研究期間：5月～7月）

検証授業日 7月10日

対象 勝浦市立豊浜小学校5・6学年（17名）

単元名 総合「港の見える公園を盛り上げよう作戦」

(4) 研究のまとめ 検証授業の分析と考察をし、研究のまとめをする。

6 研究の内容

(1) 仮説について

仮説 身近な素材を活用し指導計画を工夫すれば、児童が主体的に活動し、相手や目的に応じて必要な情報を主体的に表現する力が高まるだろう。

情報活用の実践力

相手や目的に応じて必要な情報を主体的に表現する力

児童の実態

- 文や言葉で何かを伝えることが苦手
- 目的意識・相手意識が希薄
- 港の見える公園への関心が低い

教師のねがい

主体的に学び、相手に分かりやすく伝える力を身につけて欲しい

港の見える公園を通した活動

身近な素材を活用+指導計画の工夫

- ・草取りボランティアの呼びかけ [ポスターの作成活動]
- ・第1回草取りボランティア
- ・振り返り



課題意識

- ・草取り、読み聞かせの呼びかけ [チラシの作成活動]
- ・第2回草取りボランティア
- ・読み聞かせ

☆目的意識…「港の見える公園を盛り上げる」

相手意識…「全校児童」

情報活用の実践力が高まった児童の姿

今回求める情報活用の実践力

- 目的意識と相手意識を持って活動している姿
- 話し合い活動の際に、的確な意見を言っている姿
- 自分の考えを分かりやすく書いている姿

(2) 指導計画 (総合 7 時間)

総合的な学習の時間と道徳、学校行事との関連

**道徳「高学年としてみんなの
ためにできることを考えよう」**

総合「港の見える公園を盛り上げよう作戦」

「自然を大切に」

3 - (2) 自然愛, 環境保全

・自然のすばらしさを知り, 身の回りにある自然を大切にしよう。

港の見える公園について考えよう (1 / 7)

・昨年度学校の敷地内にできた, 港の見える公園についてのアンケートをとる。

港の見える公園が
見えそう

「よりよい学校に」

4 - (6) 愛校心

・みんなで協力して, よりよい学校をつくっていこう。

港の見える公園をきれいにしよう (2・3 / 7)

・草取りボランティアの計画

・港の見える公園をきれいにするために, 草取りボランティアをお願いするためのポスターを作る。

ポスターを作り, 課題意識を持たせる

学校行事

・海浜生物採集 (磯観察) の時間に, 新官の磯で読み聞かせを行う。

「みんなに役立つ喜び」

4 - (3) 役割と責任の自覚

・自分の役割を自覚して, 集団の目標を達成する喜びを知ろう。

港の見える公園を盛り上げよう作戦

(4・5・6 / 7)

・港の見える公園を盛り上げるために, ポスター作りを振り返る。
・1・2・3年生にも草取りボランティアや読み聞かせに来てもらえるように, チラシを作る。
・完成した他のグループのチラシを見合う。

課題をもとにチラシ
作りに取り組む

※草取りや読み聞かせは自由に参加してもらうために, 業間の時間に行う。



港の見える公園を盛り上げよう作戦

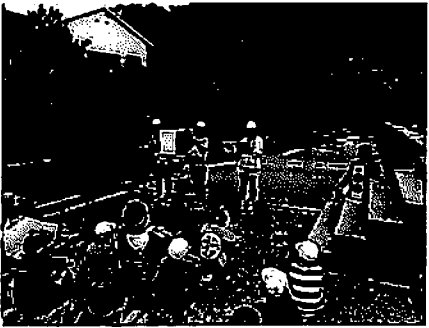
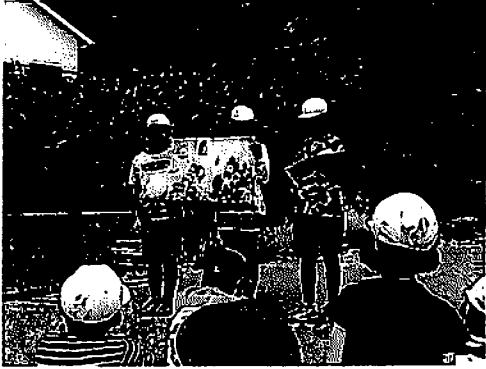
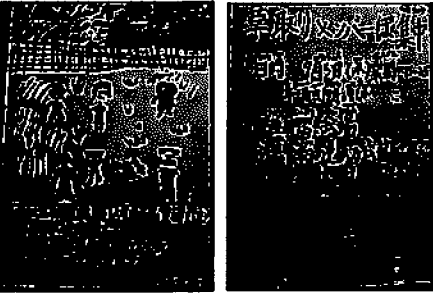




(7 / 7)


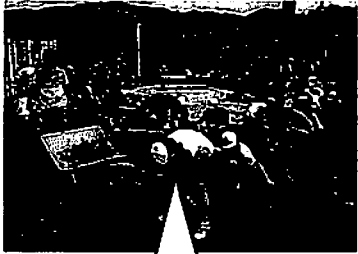

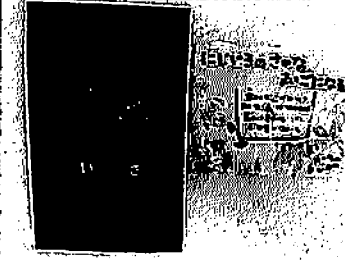
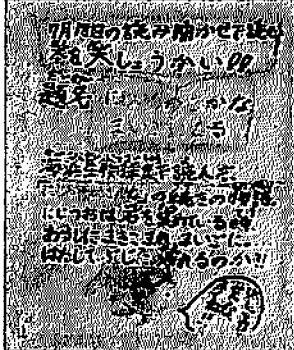


・より多くの人に読み聞かせに来てもらえるように, 読み聞かせ本のポップを作る。

(3) 指導実践

は情報活用の実践力が高まった児童の姿

時	活動内容	・活動の実際 ◎子どもの意見
道徳	○自然のすばらしさを知り、身の周りにある自然を大切にすゝる気持ちを養う。	<p>・身の周りにある自然について考える。</p> <p>◎豊浜小には、港の見える公園があるよ。</p> 
1	○港の見える公園についての関心が低いので、港の見える公園で何ができるかを考える。	<p>・昨年度学校の敷地内にできた、港の見える公園についてのアンケートをとる。</p> <p>公園の草をとらたぼうがいい。</p> <p>読み聞かせができる。</p>
道徳	○みんなで協力して、よりよい学校をつくっていく計画を立てる。	<p>・よりよい学校をつくっていくために、みんなで何ができるかを考える。アンケートの結果を伝える。</p> <p>◎港の見える公園をきれいにしよう。</p>
2	○港の見える公園をきれいにするための話し合い活動を行う。	<p>・港の見える公園をきれいにするために、みんなでよい方法を考える。</p>
3	○草取りボランティアを呼びかけるために、ポスターを作る。	<p>◎草取りボランティアをお願いするためのポスターを作ろう。</p>
業間	○港の見える公園で草取りボランティアを行う。	<p>・草取りボランティアの参加者</p> <p>1年生0名 2年生0名 3年生0名 4年生10名中10名 5・6年生17名中17名 教員3名 合計30名</p> 
道徳	○自分の役割を自覚して、集団の目標を達成する喜びを知る。	<p>・みんなに役立つ活動を考える。</p> <p>◎下級生のために読み聞かせをすれば、喜んでくれんじやないかな。</p>

<p>学校行事</p>	<p>○海浜生物採集(磯観察)の時間に、新官の磯で読み聞かせを行う。</p> 	<p>・磯で海に関係のある本の読み聞かせを行う。 「にじいろのさかな」</p> 
<p>4 5</p>	<p>○港の見える公園を盛り上げるために、ポスター作りを振り返る。</p>  <p>○1・2・3年生にも草取りボランティアや読み聞かせに来てもらうために、チラシを作る。</p>	<p>・ポスター作りの振り返りを行う。</p> <p><u>来なかった人達の意見</u> 知らなかった(3年生) 漢字が読めなかった(1年生) 字が小さくてわからなかった(3年生) どこの公園のことかわからなかった(2年生) 内容を知っていたら協力したかった(2年生)</p> <p><u>◎1・2・3年生にも草取りボランティアに来てもらえるようにしたい。</u></p> <p><u>◎一人ひとりが必ず見るチラシを作って配ろう。</u></p> <p><u>◎チラシに公園の場所をかいた地図を入れよう。</u></p> <p><u>◎漢字を少なくして、字を大きく書こう。</u></p>
<p>6 検証 授業</p>	<p>○完成した他のグループのチラシを見合う。</p>  	<p>・付箋に良い点(青色)と改善点(赤色)を記入する。</p> <p>良い点</p>  <p><u>字の大きさがちょうど良くて、読みやすいね。</u></p> <p><u>イラストがかわいいから、1・2・3年生も興味をもちそう。</u></p> <p>改善点</p>  <p><u>タイトルをもっと大きく書いたら見やすくなる。</u></p> <p><u>まだきちんとぬれていないところがあるよ。</u></p>

<p>業間</p>	<p>○港の見える公園で第2回草取りボランティアを行う。</p> 	<p>・草取りボランティアの参加者</p> <p>1年生8名中8名 2年生7名中7名 3年生10名中9名 4年生10名中10名 5・6年生17名中17名 教員11名中10名 合計61名</p>  <p>きれいになるから参加して良かった。</p>
<p>7</p>	<p>○港の見える公園を盛り上げるための活動を行う。</p>  <p>○港の見える公園で行う読み聞かせに来てもらうために、さらにできることを考える。</p>	<p>◎読み聞かせの紹介を掲示すれば、たくさんの方が参加してくれるんじゃないかな。</p> <p>・より多くの人に読み聞かせに来てもらえるように本のポップを作って掲示する。</p>  
<p>業間</p>	<p>○港の見える公園で読み聞かせをする。</p> 	<p>・読み聞かせ参加者</p> <p>1年生8名中8名 2年生7名中7名 3年生10名中10名 4年生10名中10名 5・6年生17名中15名（2名欠席） 教員11名中10名 合計60名</p> 

(4) 仮説の検証

①身近な素材を活用

今回の実践では「港の見える公園」という児童にとって身近な素材を活用した。始めは公園に対して関心の低かった児童も、学校内にある公園を、自分達の手で盛り上げることにやりがいを感じ、積極的に話し合いを進め、様々な意見交換をしていた。そして、自分達の課題を全校児童の課題としてとらえ、高めることができた。身近な素材を活用したことにより、児童が主体的に活動し、チラシを通して必要な情報を主体的に表現することができた。

②指導計画の工夫

道徳の授業と関連させたことにより、「港の見える公園」へスムーズに目を向けることができた。特に、「みんなに役立つ喜び」という内容と関連させ学校行事で海浜生物採集（磯観察）の時間に、学区の磯で読み聞かせを行ったことで下級生の関心を高めることができ、後の公園での読み聞かせの活動へと繋げることができた。

ポスター作りの課題を見つけ、課題意識を持ってチラシ作りを行った結果、相手や目的を意識し、必要な情報を主体的に表現することができた。また、全校児童が参加してくれたことで、自分達の活動に自信を持ち、みんなのために役立つ喜びを実感することができた。活動の振り返りや改善を多く取り入れたことで、児童はより良い表現方法を探し、より効果的な方法を見つけることができた。

以上の検証から、身近な素材を活用したことで、児童は主体的な活動を持続して行うことができた。指導計画を工夫して作成したことで、ポスター作りの振り返りから課題意識を持ち、相手や目的に応じて必要な情報を主体的に表現する力が高まった。

7 成果と課題 【◎成果 △課題】

◎ポスター作りのふり返りの時に、子どもたちが課題意識を持ち、チラシを作って配りたいという意見が出るなど、主体的に活動することができていた。

◎目的意識や相手意識をしっかりと持たせて活動させたことで、チラシ作りを通して必要な情報を主体的に表現することができ、情報活用の実践力の高まりを実感することができた。

◎自分たちの作ったチラシを見て多くの人が活動に参加してくれたことに対して、子どもたちは自分たちの活動に自信を持ち、チラシは効果的な方法だったと実感することができた。

△他のグループの指摘をする時に、見合う視点をより明確にさせておけばよかった。

資料編

情報・視聴覚部会 事前調査 (豊浜小学校)

名前 _____

※対象 5・6年生 17名 ○囲みは数字回答数

あてはまるものに○をしてください。

1 下級生とかかわることは好きですか。

好き	まあまあ好き	あまり関心がない	嫌い
⑥	⑥	④	①

2 読み聞かせをすることは好きですか。

好き	まあまあ好き	あまり好きではない	嫌い
④	④	⑥	③

3 文を書くことは好きですか。

好き	まあまあ好き	あまり好きではない	嫌い
②	⑤	⑤	⑤

4 文や言葉で何かを伝えることは好きですか。

好き	まあまあ好き	あまり好きではない	嫌い
①	④	⑧	④

5 港の見える公園で何ができると思いますか。

自由に書いてください

きゅうけい 5名, 読み聞かせ 4名, 公園の草をかったほうがいい 3名,

勉強 2名, バザーの食べるころ, 遊び, 青空教室

情報・視聴覚部会 事後調査 (豊浜小学校)

名前 _____

※対象 5・6年生 17名 ○囲みは数字回答数

あてはまるものに○をしてください。

1 下級生とかかわることは好きですか。

好き まあまあ好き あまり関心がない 嫌い
⑪ ⑥

2 読み聞かせをすることは好きですか。

好き まあまあ好き あまり好きではない 嫌い
⑦ ⑩

3 文を書くことは好きですか。

好き まあまあ好き あまり好きではない 嫌い
⑤ ⑫

4 文や言葉で何かを伝えることは好きですか。

好き まあまあ好き あまり好きではない 嫌い
⑩ ⑦

草取り・読み聞かせ大作戦を終えて

児童のふり返し集計結果 ※対象 5・6年生17名 ○囲みは数字回答数

名前 _____

1 ポスター作りの反省から、チラシを多くの人に見てもらうために、工夫することができましたか

できた まあまあできた あまりできなかった できなかった

⑩

⑤

①

どんな工夫をしましたか。

- ・地図をかいた。字を大きく書いた。
- ・相手意識を持って、絵やイラストなどをかくことができた。
- ・テーマを工夫した。
- ・オリジナルのキャラクターを入れた。
- ・絵を大きくかいた。
- ・1, 2年生にもわかるように、ひらがなでかいた。

2 他のグループのチラシを直すことができましたか。

できた まあまあできた あまりできなかった できなかった

⑧

⑧

①

そのわけ

- ・良いところ、改善点を教えることができた。
- ・字の大きさやひらがなを直すことができた。
- ・アドバイスをしっかりとかくことができた。
- ・みんな良いチラシでそれぞれ工夫があって、直すところがなかった。

3 読み聞かせまでに準備しておくといふことは何ですか。

- ・本の紹介を書いてけいじする。
- ・読み聞かせの練習をたくさんする。

ポスター作りからチラシ作りの変容

ポスター



字が小さい。

チラシ



タイトルの工夫。

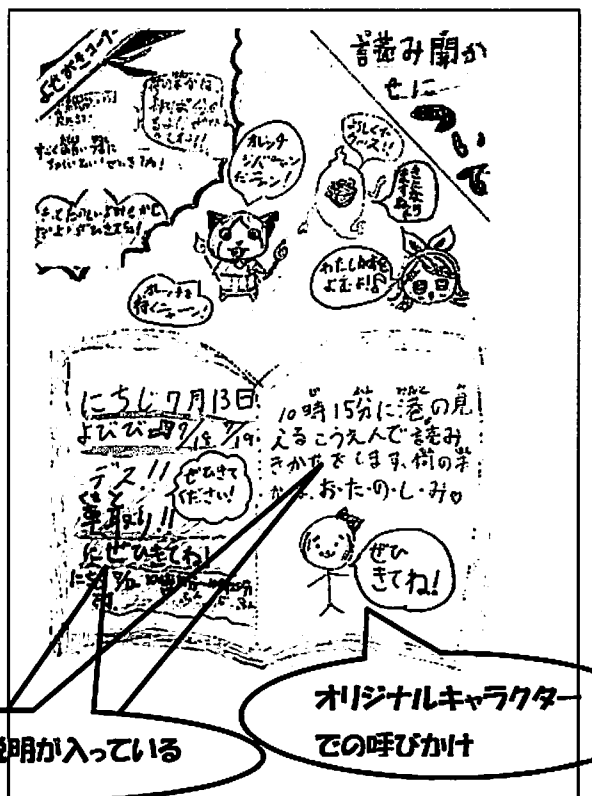
ひらがなで書いている。

ポスター



情報が少ない

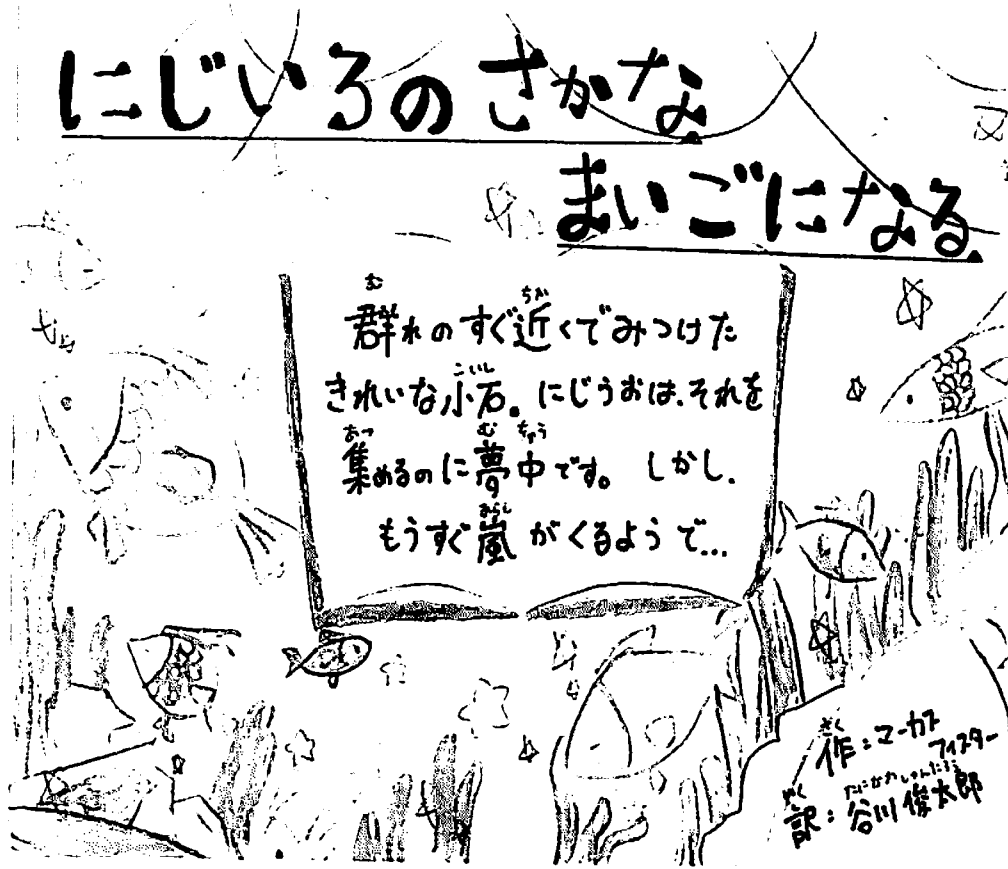
チラシ



かわいい説明が入っている

オリジナルキャラクターの呼びかけ

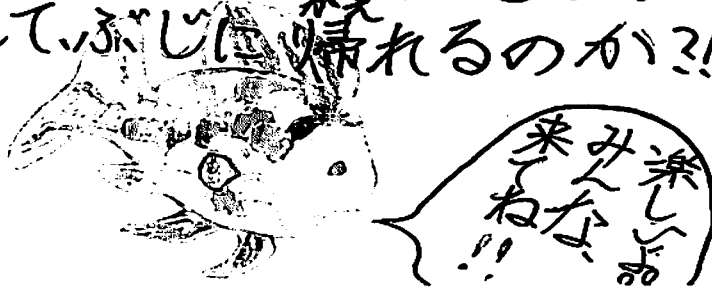
読み聞かせに来てもらうためのポップ作り



題名: にじいろのさかな
まいごになる

海浜生物採集で読んだ。

「にじいろのさかな」の続きの物語。
にじうおは、石を集めている時、
あらしにまきこまれまいごに。...
はたして、ふじに帰れるのか?!



「港の見える公園を盛り上げよう作戦」を終えての感想

始めは公園にあまり興味がなかつたけど、ポスターやチラシを作って公園を大切にしようという気持ちが強くなりました。5年

ポスターではあまり人が集まらなかったけど、チラシを配ったらたくさんの方が参加してくれてとてもうれしかったです。チラシは大成功でした。5年

チラシ作りでは相手意識をもって文字やイラストをかきることができました。相手意識することはとても大事なんだなと思えました。5年

文字や言葉で伝えることは苦手でしたが、チラシを作ったおかげで文や言葉で伝えることが好きになりました。5年

